

令和2年度第1回鎌倉市健康づくり計画推進委員会

日 時：令和2年（2020年）11月12日（木）午後7時00分～午後8時10分

場 所：鎌倉市役所本庁舎2階 全員協議会室

出席者：委員 14人、事務局 8人

欠席者：1人

開会 事務局（菊池課長）

本日の出席委員は14名で、委員の過半数を超えているため、本推進委員会条例施行規則第3条第2項の規定により会議は成立していることを報告。

石崎委員は所用のため欠席。

委員名簿の中で記載の訂正がある旨報告。

また委員の変更があり、鎌倉市医師会の理事交代により湯浅章平委員から今井一登委員に、鎌倉商工会議所青年部会長の任期満了に伴う交代により黒木伸太郎委員から木村信也委員に、鎌倉保健福祉事務所保健福祉課長の退職により、猿田貴美子委員から柴田元子委員に、鎌倉私立幼稚園協会長の交代により森本壽子委員から高麗宏子委員に変更の旨報告。

傍聴者はいない旨報告。

委員長

ただ今より、令和2年度第1回鎌倉市健康づくり計画推進委員会を開会する。

本年度は鎌倉市健康づくり計画の中間評価の年となっているが、新型コロナウイルス感染症の影響により本推進委員会の開催も難しい状況である。今回の委員会でアンケートの実施等も含めて各委員から意見をいただきたい。

会議次第に従い、議題1「令和元年度実績報告及び令和2年度取組み予定について」事務局から説明をお願いします。

事務局

資料1が令和元年度の実績をまとめたもの、資料2が令和2年度取組み予定をまとめたものであり、各課から回答を得た事業を取りまとめている。

表の右側の網掛部分は、それぞれの事業について、どの分野に当てはまるかを表している。最も当てはまる分野ひとつに◎をいれており、その他当てはまる分野全てに○をいれている。

達成状況については、事業目的・実施回数・参加人数・効果等を考慮し、「よくできた」「だいたいできた」「あまりできなかった」「できなかった」の4段階で評価している。

資料1、2の事業について、市民健康課からいくつか紹介をする。

かまくらヘルシーポイント事業について報告（資料1の7番）

この事業はいわゆる健康ポイント事業であり、スマートフォンアプリや活動量計を使用しながらウォーキングに取組み、それによりポイントが貯まり、蓄積ポイントで景品交換できるもので、楽しみながら運動習慣を身につけてもらうことを目的に平成30年度3月から実施している。メインターゲットは30～50代の働き盛りの方である。

令和元年度は、約4,000人の参加実績があり、30～50代の参加者は全体の7割となった。一方で継続的に利用した方は2割程度にとどまり、それ以外の方は、参加はしているが歩数のデータ送信等には結びついていないという課題があった。

令和2年度は、かまくらヘルシーポイントの運営を委託していた事業者との契約が9月に終了したことに伴い、現在新しい事業者を公募している。新たな事業者へは、今までの課題であった継続性を高める工夫や利用しやすいアプリケーションの開発等の提案を要求しており、本年度12月ごろに契約を締結する予定。令和2年度は開発期間とし、令和3年度からの運用開始を目指す予定となっている。

母子保健事業について報告（資料1の21番）

昨年度の新規事業の妊婦歯科健診は、令和元年6月から母子健康手帳交付時に無料受診券を渡す等した結果、286名が受診した。無料券の発行総数と比較すると約2割の受診になる。今年度も継続して勧奨していく。

ほかの事業での大きな動きはないが、新型コロナウイルス感染症拡大予防の影響で、昨年度3月から事業を中止していたが、6月から順次再開している。

新規事業ではないので表にはないが、資料2の13番、18番～23番、26番～34番に記載されている既存の母子保健事業、健診や教室、相談、訪問事業を通して、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援をする機能としての新しい呼び名、「鎌倉市子育て世代包括支援センターネウボラすくすく」を立ち上げた。今年度も、関係機関との連携のための研修会、事例検討会などを実施する予定。

（資料2の21番）

平成30年度から実施している産後ケア事業の新しいメニューとして、「集団の通所型サービス ママとあかちゃんのへや」を10月から開始した。生後4か月までの育児不安のある親子を対象に、集団でお互いに話をしたり、専門相談を受けられる内容。3密を避けるため、現在は1回8組が定員で、無料となっている。

全事業に通じることだが、新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、健診や教室等の集団を対象とした事業の実施方法を変更した。インターネット予約による人数の絞り込み、時間短縮のための内容変更及び参加者の管理、会場の常時換気や消毒、参加者の体調確認を徹底したうえで実施している。特に幼児健診では、毎回50人を超える参加者があり、安全に配慮しながら、必要な人には十分に相談ができるよう尽力している。コロナの影響で外出の機会、人と触れ合う機会が減り、そのことによる刺激

不足、経験不足がこどもたちの発達や養育環境に影響していると感じる。

また、数値として現段階で明らかなのは、1歳6か月児健診及び3歳児健診にて、う歯の有病率が昨年より上昇している。外出頻度の減少により、家で親子だけの時間が増え、甘いものに頼ることが増えた結果と推測はできるが、甘いものを控えるという単純な予防策だけでなく、生活習慣や親子のかかわり等をふまえた育児支援が必要であることが課題としてあがっている。

未病センターについて報告（資料1の8番）

未病センターの利用状況は、令和元年度は、延べ1,806人、初めて利用したとされる実人数は791人と、昨年より利用人数は減少している。利用者は女性が73%と多く、年代別では70代、60代、80代の順に多くなっている。若い世代の利用が課題となっているため、昨年度は、大船・深沢・玉縄地域にて出張未病センターを開催したところ、計411人の参加があり、64歳以下の利用も多くあった。

新型コロナウイルス感染症の影響により、今年3月から6月までは閉館していたが、7月から予約制で再開し、1日平均2名程度の利用となっている。当面は予約制での開設を継続する予定だが、利用者や若い世代の来所を促す手段として、図書館や郵便局に未病センターのちらしを置くなどの周知により対象者の拡大を図っている。また今後は、子育て中の世代への周知の機会として母子保健事業での案内等も検討していきたい。各所でのイベントの中止や、不特定多数が集まる事業の見合わせ等により、出張未病センターの開催も難しい状況である。しかし秋頃から地域の団体など特定の方の集まりが順次再開されており、感染症対策に留意しながら実施している。

（資料1の17番）

成人健康診査事業においては、どのがんでも受診率は低下傾向となっている。がん検診のリコールとして、令和元年度に44～58歳の女性のうち、過去3年未受診の方に乳がん受診勧奨はがきを送付した。その結果受診率が24.6%から25.3%へ増加したことから、多少の効果はあったと考えており、今年度も引き続き受診勧奨はがきを送付し、効果をみていく。なお、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、健診開始時期を6月から9月に変更するとともに、受診期間を「誕生日ごとの3か月」から「9月～2月末の通年」で受診可能としている。全体の健診実施期間は短くなっているが、受診率が低下しないよう、受診券送付時に「今こそ健康づくりが必要」というメッセージが伝わるようなちらしを同封し、受診勧奨をしている。

資料1の30番の生活習慣病予防プログラムは、若年者の健康づくりの観点から令和元年度は個別でスポーツクラブを利用してもらうプログラムを実施した。スマホで受診者へのフォローを中心に勧奨を行い、定員20名のところ、18名の参加があった。今年度は、コロナ禍であることも考慮し、個別で健康づくりに取組みたい人や、なかなか出かけられないが運動に取り組みたい人を対象に、オンラインで参加で

きる運動プログラムを提供し、生活習慣改善をサポートする事業を計画している。さらにコロナ禍によるこころの健康づくりも課題となっている。今年度は自殺者の増加も心配されるため、平成30年度に策定した鎌倉市自殺対策計画の推進とあわせて、こころの健康に関する啓発や困った時の相談先の周知などに取り組む。

高齢者の介護予防に関する事業について報告（資料1の38番～40番）

令和元年度は特に新規事業はないが、健康づくり及び介護予防に取り組むきっかけづくり並びに知識の普及啓発として、「からだの元気度チェック（資料1の39番）」という、体力チェックと口腔のチェックを行い、個別にその結果に応じたアドバイスを行うものや、「かまくらシニア健康大学（資料1の40番）」という月1回様々なテーマで講座等を行っている。

令和2年度については、新型コロナウイルス感染症の影響により、7月まで事業を中止していたが、8月から徐々に再開している。昨年度に引き続き「からだの元気度チェック」、「かまくらシニア健康大学」の他、「通所型サービスC（資料1の38番）」を「からだの元気アップ教室（資料2の35番）」と名称変更し、体力の低下が心配という方が誰でも気軽に参加できるようにした。また今まで各学習センターを会場に使用していたが、学習センター以外の会場を使い、市内各地で開催できるように試みている。

高齢者は、コロナのことを心配し、そういった教室への参加を躊躇している方も多いうように感じる。一方で心配のあまり外出を控えてしまうことで、体力や認知機能の低下が進んでしまう恐れも懸念される。地域での活動も感染予防策をとりながら、再開が進んでいるようだが、やはり参加をためらう方もおり、以前よりも歩けなくなっている等の心配する声も上がっている。

事業が実施できない時期は、高齢者へ新型コロナウイルス感染症に関する相談窓口の案内とともに、自宅のできる運動の紹介を送るほか、民生委員の協力を得て、健康づくりに関する情報を紙面で届けた。コロナ禍では介護予防の取組みがより重要となるので、高齢者に、いかに感染予防対策をとりながら、運動教室等に参加してもらうか、健康づくりに関する情報をどのように広く多くの方に伝えたらよいか、高齢者でもスマートフォンやPCを使う方も増えてきているので、それらをどのように活用できるかが、今後の検討課題となっている。

委員長

資料1及び資料2の各項目にある○と◎の違いはどのような意味か。

事務局

各項目で一番あてはまると思われるものを◎としており、その他でも関係のあるも

のを○としている。

委員長

達成状況の4段階評価は◎のみに対してか。または○も含めた内容か。

事務局

◎のみではなく、○も含めた評価である。

委員長

今年度の新しい取組みは何かあるか。

事務局

これから行う予定だが、若年層への取組みがある。昨年度はスポーツクラブに行つて健康づくりに取り組んでもらったが、今年度はオンラインとし、講師が運動しているものを見ながら自宅で一緒に運動をし、併せて双方向で相談等も行えるコースを用意しようと考えている。

委員

達成状況の評価がかなり主観的である。たとえばヘルシーポイントは目標参加者数9,000人に対し、4,000人では達成度は50%ですらない。良い悪いではなく、実績を出してほしい。

事務局

主観的という指摘はもっともである。ヘルシーポイント事業については、目標参加人数には達していないが、平成30年度より参加者数は増えているという成果もあるため、50%程度の達成として評価をつけた。

委員

ヘルシーポイントだけに限った話ではない。よくできたかどうかではなく達成状況を知りたいと思う。

委員

妊婦歯科健診の受診率が20%とあり、よくできたという評価になっているが、受診率をもっと上げられなかったのかと思う。歯科医師会でも方法を考えたいと思う。資料にある評価は、当初の数値目標に対してなのか、または主観的判断なのか。

事務局

対象となる妊婦のうち、前年度に妊娠届を出した妊婦も含まれるため、1年間の期間で区切った評価は難しい。また新規事業である点やコロナ禍による受診控えなどもあり、判断は難しいので、主観的な判断で評価をしている。今後どのようにして推進していくか検討していきたいと思う。

委員

市の事業がたくさんある点はよいが、住民への伝え方を考えないといけない。もはや事業を行うことで手一杯なのではないか。ましてやコロナもあって職員に対してより負荷が大きくなっていると思う。住民への伝え方やコロナ対策に特化し簡素化して実施してみるなど、今までとは切り口を変えてみないといけないのではないかな。またターゲットを高齢者や子育て家庭などに絞ったうえで伝え方を考える必要があると思う。

委員

妊婦歯科健診についてだが、市内の対象者に伝わっていればよいが、今はコロナで外に出たがらないお母さんもいる。密になることを心配して行政センターへ行かない人もいると思うので、市からのインフォメーション方法も見直してほしい。

委員

テレワークが進み、外出する頻度も減り、体重が増えている人もいる。運動をする習慣がない人はなおさらである。そういった人へのアプローチも必要であると思う。また育児の相談等では、母親と子という想定が多いが、今は育児をする父親も増えていると思うので、そういった父親も対象としてよいと思う。

事務局

育児相談では、特に授乳に困る父親もいると思うので、方法を考えていきたい。

委員長

コロナがあるから各事業の実績は昨年に比べ落ち込むと思うが、何か対策が必要なのではないかと思う。

何か今年度の実績データは出ていないか。

事務局

乳児健診がもっとも再開が早いですが、中止していた期間があるため受診率は低くなっており、例年では約95%であるところ今年度は約70%となっている。今年度は受けそ

びれた人も多いと思われるので、こちらから個別で連絡や訪問を行い、現況把握に努めている。また相談方法としてメールの受け付けを始め、個別での対応を進めている。

委員長

子どもだけではなく成人に対してはどうか。成人健康診査やがん検診等についても知りたい。

事務局

がん検診については、住民へ受診券を送付するときに「健診を受けましょう」というメッセージを合わせて送っている。特定健診では受けていない人に個別で電話かけを行っている。

事務局

先ほど指摘のあったとおり、取組み実績の達成状況が主観的だという指摘については、今後評価のやり方も含めて検討していく。

委員長

続いて、議題2「中間評価のためのアンケート調査について」に移る。事務局から説明をお願いします。

事務局

資料3の「中間評価のためのアンケート調査について」を参照。当初、今年度中に計画の中間評価のためのアンケート調査を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、中間評価及びアンケート実施を1年延期することとなった。しかしながら、新型コロナウイルス感染症収束の兆しが見えず、市民の生活や行動が通常時と大きく異なることから、前回のアンケート結果との比較が難しいと推測される。そのため、再度アンケート実施の延期を検討している。

委員

延期の期限は設けていないのか。

事務局

新型コロナウイルス感染症が収束してから、と考えている。

委員

アンケートの実施方法について知りたい。

事務局

前回のアンケート実施方法と同じく、無作為に抽出した対象者にアンケートを送付する。送付件数は前回と同様の6,100件であり、そのアンケートの結果を前回実施分と比較することで計画の改訂に活用しようと考えていた。しかし住民感情を踏まえるとコロナ禍でこういったアンケートを実施することで、市民から反発される可能性もあると考えている。

アンケートは無作為抽出だが、コロナの影響で以前とは違う生活様式となっており、結果の比較が難しいと思っている。そのためアンケートは延期したいと考えている。中間評価はアンケートをもとに行いたいので、中間評価も延期したいと思う。

委員

中間評価の延期でよいと思う。しかし今後アンケートを実施するのであれば、実施方法を考えなければならない。アンケート回収には労力がかかるし、電話やメールで問合せがあればその都度対応しなければならないので大変だと思う。ノウハウを蓄積する必要がある。

事務局

現委員の任期が令和3年3月9日までとなっているので、それまでに第2回を開催したいと考えている。その時に各委員から、コロナ禍で展開できる健康づくりの事業として何ができるか意見が欲しいと思う。またできればこの場でも意見をいただきたい。

委員

中間評価のためのアンケートという位置づけではないが、今こそ市民がコロナ禍で健康についてどのように困っているのか調べてもよいと思う。

委員長

アンケートは、計画の進捗を知りたいという期待と、現在のコロナ禍で市民がどういった健康状態なのか知りたいという2つの期待がある。しかし前者は生活様式が変わってしまっており、この変化は今後も続くだろうから、前回のアンケートとの比較は難しい。後者のように、現在の状況を調べることで、何か対策が必要であるという

ことが分かるかもしれないので、アンケートはどこかで一度はやらなければならないと思う。

委員

一人暮らしや高齢者、母子家庭等の弱者には何かフォローが必要であると思う。高齢者はコロナで重症化しやすいという話もある。

委員長

現在の健康づくり計画は当時の情勢をもとに作成しているので、コロナについては別の対策を講じなければならない。先ほどの弱者が抱える問題に対してコロナ禍で何が必要か考えなければならないが、それをアンケートで調査するのは、回答してもらえるか不明であり、なおかつその結果で問題を解消するのは難しいと思う。

委員

現実問題として、コロナ鬱やコロナ差別など、人間関係を絶たなければならないというケースが起こっている。そうしたなかで市の健康づくり施策はどうしたら良いのか。以前は健康チェックのように、高齢者が集まる機会もあったが、それもコロナでできなくなっている。しかし少人数でも集まって、運動していくと気持ちも上向きになる。感染予防の注意点を守ればリスクは軽減されるので、少人数で行っていくしかないと思う。

また私のほうでも「健診を受けましょう」という電話をかなりかけているが相手に嫌がられるということはないと思う。誰かと話をすることでも良い効果はあるし、相手に心配しているという気持ちを伝えるだけでもよいと思う。

委員

衛生時報は内容が面白く良い。市は市民に対しヘルスリテラシーを大いに推奨して欲しい。

委員

活動できる小集団を作る支援があれば良いと思う。少人数で、3密を避けたうえで活動するのは良いと思う。

委員

どういった活動であればよいのか。

委員

難しいが、飲み会やカラオケは感染予防上だめだと思う。屋外でのバーベキューでもだめ。マスクしてラジオ体操ぐらいだと思う。

委員

集まるとすると地域や町内会かといった集団か。

委員

そうなると思う。鎌倉市の薬局で市民の集まりの場を主催するといったことをやっていたか。

委員

私の薬局では「医食同源 cafe」というものをやっており、6人程度は集まる。しかしいつも同じような人になっているので、別の人にも声をかけている。新しいコミュニティに入ることを怖がる人もいるので、怖がらなくても大丈夫と伝えていきたいと考えている。

委員

地域活動といえば、今夏のラジオ体操は屋外かつ3密にもならないのでできると考えていたが、感染予防を徹底すべきと言う人もおり、町内会ではそこまで対応できず、結局できなくなった。地区社会福祉協議会などの行事もすべて中止となった。屋内の部屋等も借りられなくなった。最近ではようやく町内の防犯パトロールが、屋外で3密でもないので、できるようになった。しかし市民運動会などできなかった行事もまだ多く、行事再開に関しては様々な意見もあるだろうから、難しい問題だと思う。

唯一再開できているものとして、地区社協が行っている高齢者の見守り活動がある。しかし人数は少なくしている。

委員長

コロナ禍で市も行う事業については実施方法等考えることが多いだろうが頑張りたいと思う。

中間評価についてはすぐに決断はでないと思うので、検討を続けて欲しい。

事務局

コロナの状況下で市民の健康状態を把握できるようなアンケートができないか、事務局で一度検討する。またコロナ禍におけるこれからの健康づくりをどのようにする

かは、次回の委員会でご意見をいただければと思う。

委員長

続いて、議題3「その他」について、事務局からお願いします。

事務局（齋藤）

次回の委員会については開催日が決まったら、開催通知を送る予定。
現委員の任期が令和3年3月9日までであるため、それまでには開催をする。

委員長

質問及び意見がないようなので、以上で令和2年度第1回健康づくり計画推進委員会を閉会する。